

追悼、伊藤和行くん

根本（鎌田） 猛*

Memory of Dear Kazuyuki Ito

Takeshi NEMOTO (KAMADA)

半世紀の友・伊藤和行くんが急逝されたことは、私にとって、全く信じられない、また受け入れがたい衝撃の知らせでした。私と同じ 64 歳、まだ年寄りですらなかったのに。

1 年以上たった今でも、これは悪い夢ではないかと思ってしまう。和行くんがいつもの笑顔で「冗談だよ」と夢を覚ましてくれるのでは？。

和行くんと出会ったのは、北海道の北見北斗高校でした。高校に伊藤姓がたくさんいたのと、1 学年上に瓜二つのお兄さん（専修大学教授・伊藤博明さん）が在籍していたので、私だけでなく同期生はみな単に「和行くん」と呼びます。和行くんやお兄さんは 30km 近く離れた美幌町の自宅から汽車通学、冬期間のみ高校の近くで下宿生活をされていました。

お互い理屈っぽい頭でっちな高校生だったのでしょう。でも一度も同じクラスになったことがないのに、彼は理系、私は文系で共通点は少ないのに、いろいろなことで親しく付き合ってきました。後の彼の研究分野にも関連するのですが、理系でありながら、文学や歴史にも明るい学友でした。きっと美幌町の中学生のときは、田舎にこんな秀才がいるのか!?! と注目の的だったのではないのでしょうか。

忘れられないのは、受験で私が第 1 志望の京都大学にふられたときのことです。翌々日だったか二期校受験のため出発しました。北海道大学に合格した和行くんが朝、北見駅まで見送りに（励ましに?）来てくれたのです。私としては、静岡大学は楽勝という意識だったので正直、えーっ！と思いましたが、彼の意外な優しさも知ってとてもうれしかったです。

高校卒業後、一緒に山登りもしました。北海道の斜里岳、雄阿寒岳、大雪山、東京の高尾山、御前山など。1979 年夏、斜里岳から国後島を見たのが一番の思い出です。

お互いラグビー好きで、東京で早明戦など大学ラグビーを観戦したこともあります。

* 静岡大学名誉教授（憲法学）

運動オンチの私とは違い、クラス対抗の草ラグビーでは、スクラムハーフを任されていた（北見北斗高校は当時、ラグビーが異常に盛んな高校でした）。

大学院の5年間はともに東京だったので（彼は東京大学、私は一橋大学）、結構行き来しました。私が国立国会図書館にいたときにはイタリアに留学していました。私よりずっと優秀な研究者だったのに、就職が厳しい科学史をやっていたので、京都大学に就職したのは38歳。それからは学界でも大学でも大活躍だったと思います。

高校時代の共通の友人からは、和行くんが京都府内の小学校でゲストティーチャーをされたり、火の鳥伝記文庫『ガリレオ』（山本省三著）に解説を書かれたと伺いました。科学の将来を担う子どもたちのために、そんな活動までしていたなんて、和行くんのまた意外な一面を知った思いです。

最後にリアルで会ったのは、2016年秋、高校の還暦同期会でした。元気そうだったし、どうせまた会うだろうとあまり話をしなかったことが悔やまれます。研究者としても大成し可愛いお嬢さんもいらして、これ以上何もいないという境遇ではなかったかと推測しますが、命を取られるなんて……。

和行くんと出会えたこと、これまでの和行くんとのすべてに感謝します。和行くん、本当にありがとう。そしてさようなら。



左が和行くん、右が筆者、1979年10月、奥多摩・御前山にて